

## はじめに

新しいGPXオーナー様、おめでとうございます。GP Motor (Thailand) Co., Ltd.のバイクをご信頼のうえご購入いただき誠にありがとうございます。POPz110は、洗練された技術革新を駆使してお客様が求めるオートバイでも最高の1台となるよう、巧に作られています。便利で経済的、そして使いやすいバイクでありながら、安全性と燃費を追求したデザインを指しております。

このバイクの魅力を存分にお楽しみいただくため、本取扱説明書をよくお読みください。

本マニュアルには、操作の方法やトラブルシューティング時のヒントなどを含む適切なメンテナンス方法など、基本的な説明を記載しています。さらなるご質問やサポートはお近くのGPX取扱店に直接ご連絡下さい。

敬具

GP Motor (Thailand) Co., Ltd.

## Contents

- 安全な走行	4
- 概説	7
• 部品の取付位置	7
• 車台番号／エンジン製造番号	11
• イグニッション・キー	12
• 燃料タンク・キャップ	13
- エンジンの始動	14
• 燃料	15
• ヘッドライトの調整	16
- 走行	17
• 発進	17
• ギアチェンジ	18
• ブレーキ	20

## Contents

- 点検および調整	21
• 保守およびサービス	21
• エンジンオイル	22
• スパークプラグ	23
• アイドリング速度	24
• リアサスペンション	25
• 給油	26
• ブレーキ	27
• クラッチ	29
• 駆動チェーン	30
• タイヤ	31
• 左サイドカバーの取り外し方	32
• クリーニング	33
• バイクを長期保管する際の手入れ	38
• 仕様	41

## 安全な走行

### 安全走行についての説明

バイクを使用するたびに操作前点検を行い、バイクが安全な状態にあることを確認する。  
交通事故を最小限に抑えるために、常に安全ヘルメット、ゴーグル、グローブ、ブーツを着用すること。

このオートバイは、事故での衝突から身体を保護するための防御物を取り付けられるように設計していないため、正しい服装を着用することで命を救える。しかしながら、服装は、体に快適にフィットしていて、事故に繋がる可能性のある視界や動きを妨げるようなものであってはならない。

車線を変更する前に、常に信号を送り、良く見ること。サイド・ミラーだけに頼るのではなく、他の車両の速度と距離も判断すること。

急な坂を上り下りする際には燃料を節約し、エンジンの高回転の急上昇を防ぐために、シフトダウンすること。

安全に停止するために、フロント・ブレーキとリア・ブレーキの両方を同時に使うこと。一つのブレーキに力をかけ過ぎると、制御を失う可能性がある。

濡れた路面上を走行する時は安定した速度を維持し、ブレーキの使用を減らすこと。

丘陵地帯を下る時はスロットルを完全に解放して速度を下げ、両方のブレーキを同時に使うこと。

走行中に突然加速する場合は、エンジンの完全な反応を得るために、ギアをシフトダウンして加速する。

適切な速度で走行し、安全な走行、燃費、およびバイクの耐久性のために、過度の速度を避けること。

濡れた滑りやすい路面を走行する時は、より注意する。減速して制御を維持し、急な回転やブレーキを避けること。

エンジンの損傷を防ぐために、ロー・ギアを高速または高回転数で使用しないこと。

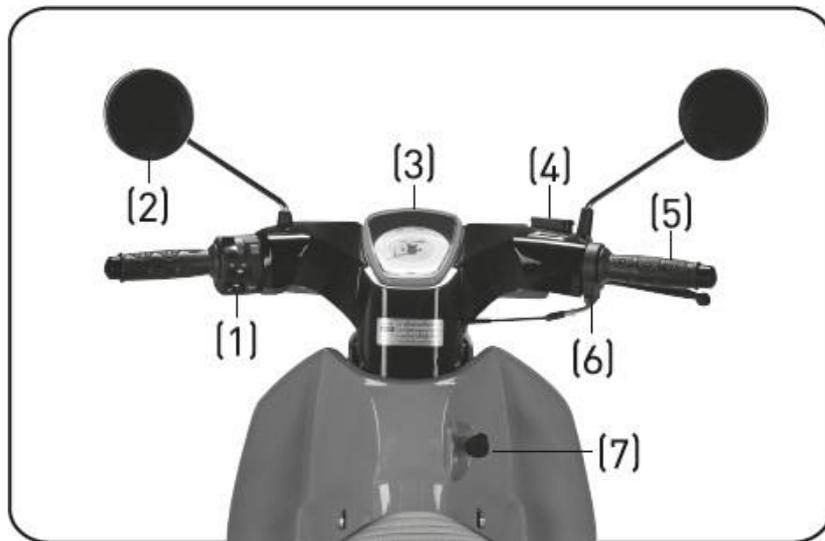
走行する時は常にハンドルバーを握り、足をしっかりとペグに乗せておくこと。

上記の規則は必須で、安全のために厳守する必要があり、また、バイクを最高の性能に保ち長持ちさせるためにも必要である。

# 概説

## 部品の取付位置

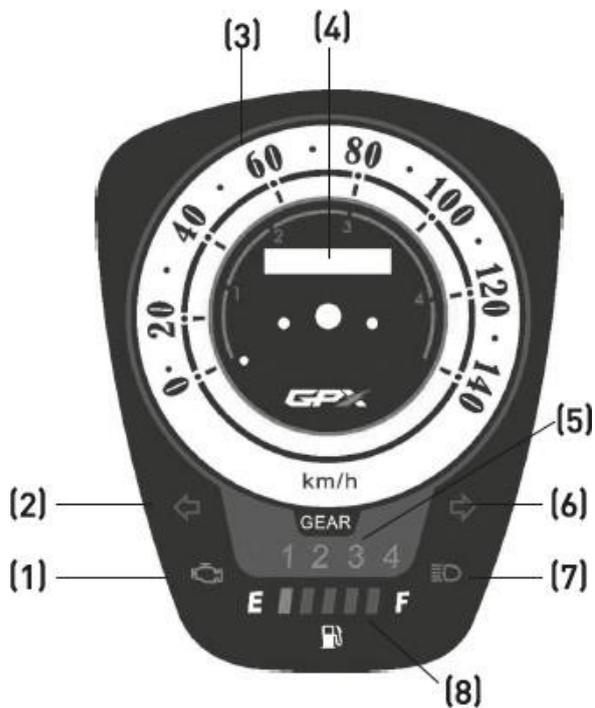
- 1) 左スイッチ
- 2) ミラー
- 3) 速度計
- 4) ブレーキ液容器
- 5) スロットル・レバー
- 6) 右スイッチ
- 7) イグニッション・キー



## 概説

### 走行距離計

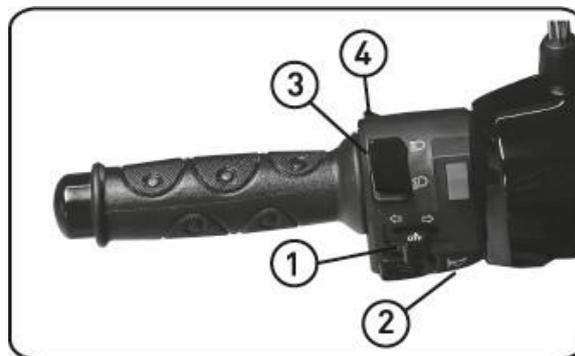
- 1) システム警告灯
- 2) 左折ウインカー
- 3) 速度計
- 4) 走行距離計
- 5) ギア位置灯
- 6) 右折ウインカー
- 7) ハイ・ビーム・ライト
- 8) 燃料計



## General Information

### 左ハンドル

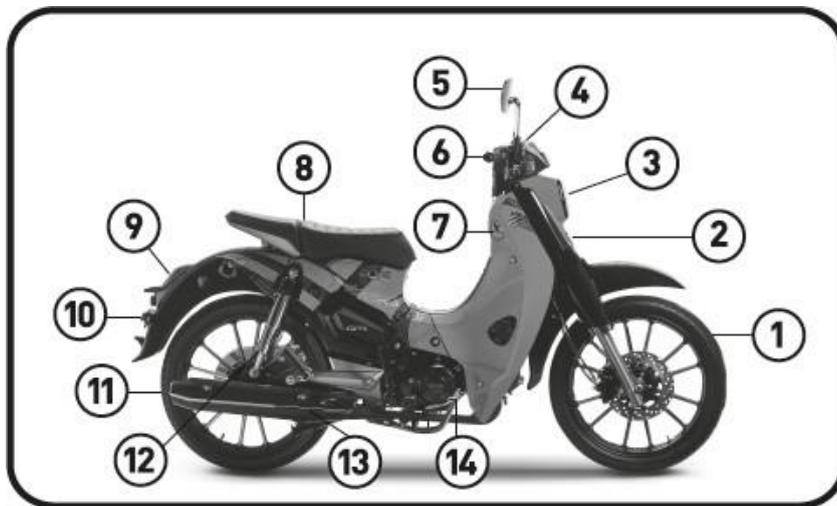
- 1) ウィンカースイッチ
- 2) クラクション
- 3) ハイ/ロー・ビーム
- 4) パッシングスイッチ
- 5) ハザードランプ



### 右ハンドル

- 1) イグニッション・スイッチ





- |                |                   |
|----------------|-------------------|
| 1. 前輪          | 8. シート            |
| 2. ヘッド・ライト調整ねじ | 9. 尾灯             |
| 3. ヘッド・ライト     | 10. ナンバー・プレート取付位置 |
| 4. 速度計         | 11. 後輪            |
| 5. ミラー         | 12. リア・サスペンション    |
| 6. スロットル・レバー   | 13. マフラー          |
| 7. イグニッション・キー  | 14. ブレーキレバー       |

## 車台番号／エンジン製造番号



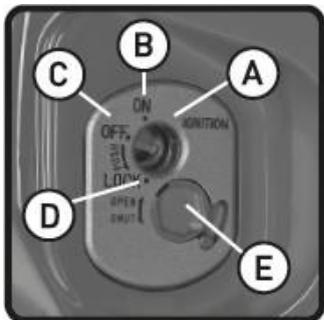
1. 車台の識別コード番号は、ステアリング・ネック(A)の左側に型押ししている。



2. エンジンの製造コード番号は、ギア・レバー・ペダル(B)に型押ししている。

## イグニッション・キー

イグニッション・キーのスイッチは、LOCK、OFF、そして ONの3種類がある。



- A. キー・スロット
- B. ON位置
- C. OFF位置
- D. ステアリングのLOCK位置
- E. キー・スロットを、キー・シャフトで開閉する

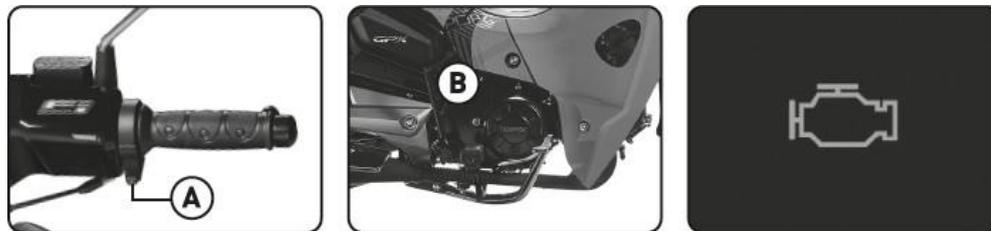
## 燃料タンクのキャップ



### 燃料タンクのキャップを開ける

- シート・ロックはシートの左側にあり、キーを使って開錠する
- シートを上げると、燃料タンク・キャップがある
- キャップを反時計方向に回して開ける

## エンジンの始動

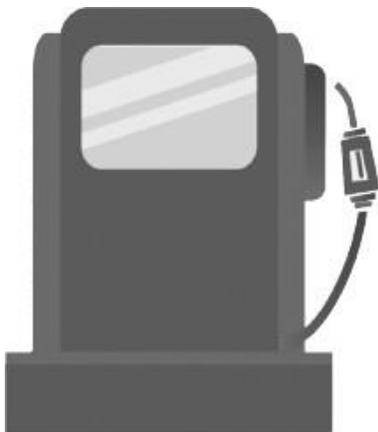


イグニッション・キーをオンに切り替える

- ハンド・ブレーキ・レバー(A)を絞るか、またはリア・ブレーキ(B)を踏み下げて、エンジンがかかるまでスロットルを最小限で回転する
- エンジン始動後は、システム警告灯が消灯する
- エンジンのシステム警告灯が消灯しない場合は問題を検知しているので、バイクをできるだけ早くGPXの販売代理店及び協力店へ持ち込む必要がある。

## 燃料

エンジンの最高効率を長期間維持するために、以下を推奨する：



資格を有するガソリンスタンドで給油すること。  
ガソリンの種類：レギュラーのみ  
タンクには、必ず1リッター以上を残しておくこと。

## ヘッド・ライトの調整



ビームが低すぎると、夜間走行には安全ではなく、また高すぎるビームは、他のドライバーの目をくらませる可能性がある。従って、ヘッド・ライト調整ネジ(A)を調整して、ヘッド・ライトを正しく照準すること。

## 走行 発進

サイド・スタンドを蹴り上げる

エンジンを始動する

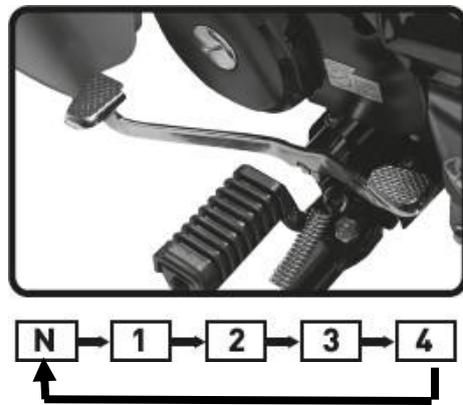
1段ギア（シフト・レバーを1回踏み下げる）の位置(A)にギア・チェンジする  
バイクが前進し始めるまで、スロットル・レバーを僅かに回す。



## ギア・チェンジ

このオートバイは、4速のギアを備えています。

- 4段すべては、ペダルの前部を1回、2回、3回、4回踏むと、それぞれ1段、2段、3段、4段になる。
- 4段の状態からもう一度踏むとニュートラルに戻るが、停止状態じゃないと入らない。
- 4段からニュートラルにギア・チェンジするには、バイクを完全に停止させてから、一度踏む。



**警告：**ギア・チェンジする時は、スムーズに行うために、常にクラッチを使用すること。

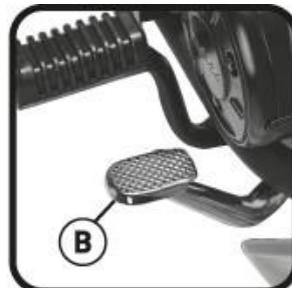
## 走行

### ギア・チェンジ速度

ギア位置	速度 KM/時
1段	0～20
2段	20～30
3段	30～50
4段	50～90

## ブレーキ

- フロント・ブレーキ(A)とリア・ブレーキ(B)の両方を一緒に使う。
- 前輪が非常に簡単にロックされて滑ってしまうので、ブレーキ・レバーを強く握らないこと。方向を変えたい場合は減速する。
- 緊急停止する場合：適切な圧力をブレーキにかけて制御を維持し、ギアをシフトダウンする。



定期的な保守およびサービス

#	点検リスト	説明	走行距離			
			1,000	4,000	7,000	10,000
1	弁間隙	締まっているか点検し、必要であれば調整する	•	•	•	•
2	スパーク・プラグ	交換する	10,000 KM毎			
3	エアーク・フィルター	交換する	10,000 KM毎			
4	オイル・フィルター	交換する	10,000 KM毎			
5	燃料経路	漏れと出口を点検する、必要であれば交換する		•	•	•
6	エンジン・オイル	交換する（排出する前にエンジンを暖める）	•	•	3,000 KM毎	
7	ブレーキ	液を交換し、ブレーキ性能を点検・調整する				
8	スイング・アーム車軸	締める				•
9	車輪	アライメントを点検し、必要であれば交換する			•	•
10	車輪軸受	必要であれば、締める、緩める、または交換する	•	•		•
11	ステアリング・ヘッド軸受	締める／緩める、必要に応じて潤滑油を交換する			•	•
12	緩衝装置	オイル漏れを点検する、必要に応じて交換する			•	•
13	リア・サスペンション	オイル漏れを点検する、必要に応じて交換する			•	•
14	駆動チェーン	緩みを点検し、必要であれば交換する	500 KM毎			
15	締め具	全体の締め具を点検し、必要に応じて調整する	•	•	•	•
16	キック・スタンド	ばね抵抗を点検し、旋回軸に潤滑油を塗る	•	•	•	•
17	電気機器	すべてのライト、信号灯、スイッチを点検する	•	•	•	•
18	バッテリー	必要に応じて取り換える		•	•	•

## 保守および調整 エンジン・オイル

バイクのエンジン、ギアボックス、クラッチの動作を最高の性能で維持するために、ギア・オイルの液面を常に維持し、一定間隔で交換すること。

オイルを交換する

1. エンジンを暖気運転し、それから停止する。
2. エンジンの下にオイル・トレイを置く。
3. エンジン底にある排出ボルト#17を外す。
4. 検油棒を外す。
5. バイクを直立位置にして、オイルを完全に排出する。
6. 排出ボルト#17を再取付し、オイルを指定トルクで充填する。
7. オイル液面を検油棒で点検する。

締めトルク 10 W 40 API SG

容量 (オーバーホール) : 1 ℓ

容量 (通常交換) : 0.8 ℓ

警告: ワッシャーが損傷していないか点検すること

17



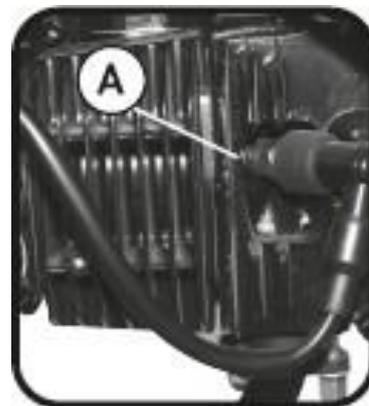
## 保守および調整      スパークプラグ

スパークプラグを外す／交換する

スパークプラグのキャップを外すオーナーの工具キットに含まれているレンチを使って、プラグのねじを緩める。

取り外し手順と反対に行って、新しいプラグのねじを締める。

指定スパークプラグ	NGK R CR8E
間隙	0.6 ~ 0.7 mm
締めトルク	13 Nm.



## 保守および調整      アイドリング速度



このバイクのアイドリング回転数は  
1200 $\pm$ 100 rpmである。  
アイドリング回転数が上記の数値と  
異なる場合は、自分で調整を試みないこと。  
バイクをGPX社サービス店に持ち込むことが  
重要である。

## 保守および調整      リア・サスペンション



リア・サスペンションのプレロード装置は、2種類の範囲で調整することができる。

- 手で調整U字形金具(A)を回す
- 柔らかなサスペンションにするには、後方に巻く
- 硬いサスペンションにするには、前方に巻く
- 左右のフォーク・スプリングを均等に調整する。

## 保守および調整

### バッテリー



このオートバイには、密閉型鉛蓄電池バッテリーを装備しているため、蒸留水を点検したり、追加する必要はない。

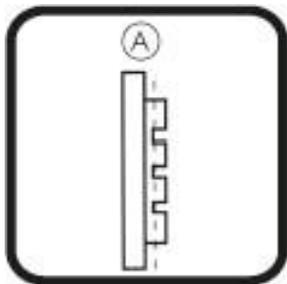
#### バッテリーを取り外す

- ラバーバンドを外す
- バッテリーのリード線を外す、安全上の理由から、最初に陰極(-)を外し、次に陽極(+)を外す
- 取り外し手順の逆を行って交換し、再取付する。

バッテリー容量 12V5A

## 保守および調整

### ブレーキ



フロント・ブレーキ／ブレーキ・ディスク

ブレーキ・パッドが1mm厚以下に摩り減ってしまった場合は、両方をセットで交換する。

ブレーキ液

液面は、常に最低マーク(A)の上になければならない。

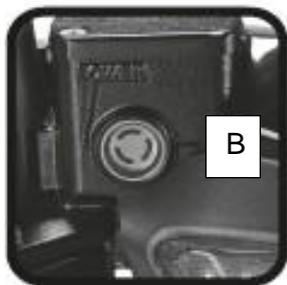
液面が最低液面(B)に達するほど低い場合は、以下を点検すること：

ブレーキ・パッドを点検し、擦り切れてしまっている場合は交換する。

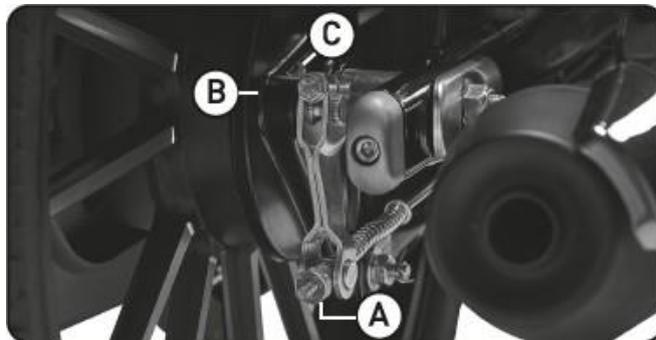
交換すると、ブレーキ液は上部の液面を流れるようになる。

ポンプ・ハウジングの上部と下部、および液ラインからの漏れを点検する。

標準ブレーキ液 DOT 3-4



## 保守および調整 リア・ブレーキ／ドラム・ブレーキ



足を伸ばしてブレーキをかける必要がある場合は、ナット(A)を締めて長さを短くすることができる。

ブレーキをかけるときのBとCのマークの位置が合っていると、  
ブレーキ・パッドが摩耗していることを示し、交換の時期である。

## 保守および調整 クラッチ

クラッチが磨耗しているとギア・チェンジが難しくなり、ギアボックスが損傷する可能性さえある。従って、クラッチを定期点検スケジュールに従って点検し、調整する必要がある。

- ロックナット (A)を緩める。
- ねじを調整して、クラッチ・レバーの遊びを適正にする。
- 正しいクラッチ動作が達成されたら、ロックナットを締める。



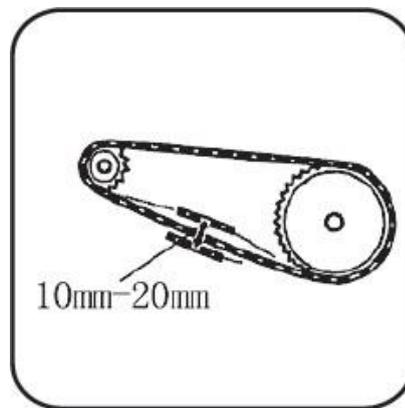
## 保守および調整 駆動チェーン

駆動チェーンの緩みを点検するバイクをサイド・スタンド上に置く。

前後のスプロケットの中間点を押し上げ、次に押し下げる。

下への緩みが大きすぎる場合は、10～20 mmに調整する。

指定張力：10～20 mm



## タイヤ



### 空気圧を点検する

タイヤの空気圧を仕様に従って維持しておくことにより、道路路上で最高の静止摩擦力と性能を得ることができる。

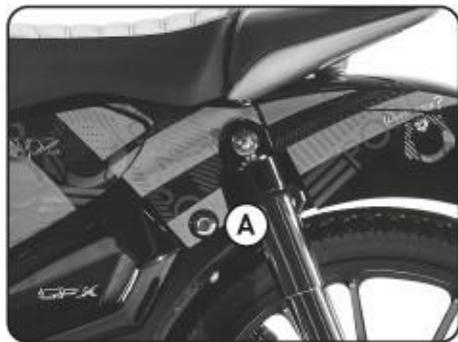
### 空気圧を点検する

- バルブ軸のキャップ(A)を回して外す
- 空気圧を読み取るために、タイヤの空気圧計を使う

	空気圧	タイヤ・サイズ	タイヤの種類
前	33 psi	60/100-17	チューブ付き
後	33 psi	70/90-17	チューブ付き

## 保守および調整

シートを開ける



運転席のシートを開ける

キーを使って(A)を開錠する。  
シートを持ち上げる

\*助手席のシートを開くことはできない

## クリーニング

頻繁にかつ適切な注意を払うことで、バイクの見栄えが良くなり、寿命が延び、性能が最適化する。洗浄に加えて、通気性がありかつ紫外線から保護するカバーを使用して、塗膜を傷つける可能性のあるほこりや小さな粒子からバイクを守る。

- 洗浄を行う前に、エンジンとマフラーは完全に冷却させておく必要がある。
- グリースをシール、ブレーキ・パッド、およびゴム部品に付けないように、特に注意すること。
- 塗料に対して刺激の強い洗浄剤は使用せず、塗料に優しい洗浄剤を使用すること。
- アンモニアを含む非常に化学的な洗剤、特に家庭用ガラス・クリーナーの使用は避けること。
- ベンゼン、ブレーキ液、ラジエーター冷却液はプラスチック部品に有害であり、汚した場合は、部品をできるだけ早く洗浄すること。
- バイクの表面を傷つける可能性のある硬いまたは尖ったブラシを使用しないこと。

- ヘッド・ライトとそのプラスチック部品を洗浄する時は、傷付けないように注意すること。シールと電気部品がある場所では高圧水を噴射しないこと、浸水は損傷の原因になる可能性がある。エアボックス、電子制御装置、ブレーキ、すべての電気コネクター、マフラー・ホール、燃料タンク・キャップのような精巧な部品には、絶対に水を噴射しないこと。
- まず、ほこりを洗い流し、汚れを水で取り除く。
- 洗浄剤と水を割合に合わせて混ぜ、柔らかくて清潔な布またはスポンジを使って、バイクを優しくこする。
- 優しいまたは霧状の清潔な水を噴射して洗い流す。
- 柔らかい布で拭いて乾かし、汚れがすべて消えたか確認する。
- バイクを乾かすために送風機を使用すると、仕上塗装の不具合を引き起こす可能性があるため推奨しない。
- エンジンをアイドリング速度で再始動し、アイドリング速度で暖機運転する。
- 洗浄後はゆっくりと走行すること。パッドの乾燥を助けるために、フロント・ブレーキを絞ってリア・ブレーキを数回踏み、両方のブレーキを確認する。

- 駆動チェーンが錆びないようにするために、乾かしてから潤滑油を塗る。

### 注意

- 海の道の近くで走行したり、海の塩水で濡れた後は、バイクを直ちに洗浄すること。温水は塩の腐食作用を高めるため、使用しないこと。
- 雨中で走行後にヘッド・ライトのレンズに結露が生じた場合は、バイクを洗浄して乾かすこと。エンジンをかけ、ヘッド・ライトをオンにして湿気を乾燥させる。

### 塗装部品

洗浄と乾燥が完了したら、金属製とプラスチック製の部品を含むすべての塗装面にワックスを塗り、磨く。これは3ヶ月に1回行う必要がある。ワックス塗膜を損なう塗料除去剤の使用は避けること。

## プラスチック部品

ヘッドライト・レンズとその他すべてのプラスチック部品は、洗浄後に柔らかい布で乾かし、オートバイ用のプラスチック・ケア製品で磨くこと。

### 重要な注意 事項：

一般的な家庭用洗剤を使用することにより、ベンゼン、ブレーキ液、ガラス・クリーナー、ネジ・ロックなどのバイクのプラスチック部品が簡単に破損する可能性がある。プラスチック部品がそれらに触れた場合は、すぐに洗浄し、損傷していないか点検する。プラスチック表面を擦るためにサンド・ペーパーまたはワイヤー・ブラシを使用しないこと。

## クロムとアルミニウム

洗淨後は、クロム研磨剤を使用してクロム製とアルミニウム製の部品を磨くか、または腐食防止スプレーを両方の金属部品に塗布する。

アルミ製ホイール（塗装された、または塗装されていない）の洗淨には、損傷を防ぐために、非酸性アルミ製ホイール用クリーナーのみを使用すること。

## 皮、ビニール、ゴム製の部品

オートバイに皮が装備されている場合は、皮用クリーナーを使用すること。ビニールの場合も同じで、ビニール用クリーナーを使用すること。一般的な家庭用洗剤または水だけを使用すると、部品の寿命が短くなる。

ゴム製部品またはタイヤについては、長持ちさせるために、タイヤの化粧用スプレーまたは液体で磨いてコーティングする。

## ※警告

タイヤ用化粧剤には注意すること、タイヤが地面と接触する場所に塗布すると、把持力が低下して制御できなくなる可能性があるため、タイヤが地面と接触しない場所にのみ塗布すること。

-----長期保管-----

### 保管のための準備作業

- バイクを洗淨する
- エンジンを始動し、しばらくしてからエンジン・オイルを排出する
- 新しいエンジン・オイルを、指定線まで充填する。

## 長期保管

- 燃料タンクを完全に空にする。下部にある排出ボルトを緩めて気化器のフロート室を空にする、これは、燃料が堆積して変速機が詰まるのを防止するためである。

## ※警告

ガソリンは通常、可燃性の蒸気量を発生するため、バイクは換気の良い場所で保管し、イグニッション・キーをオフの位置に切り替えておくこと。喫煙は厳禁で、発火源の生成を避けること。ガソリンは有害物質なので、適切に廃棄する必要がある。

- スパークプラグを取り外す。オイル缶を使用して、僅かな量のエンジン・オイルを点火プラグの穴に注ぐ。エンジンを始動して、オイルをシリンダー壁に完全に塗布し、次にスパークプラグを元に戻す。

## ※警告

オイルをスパークプラグの穴に注入すると、オイルが目や顔に噴き出す可能性があるため、注意すること！仮にそれが起きた場合は、大量の水で洗い流し、傷が永久に残らないようにするために、急いで医師の診察を受けること。

## 仕様

エンジン	110 cc、4 ストローク
モデル	POPZ 110A
シリンダー	1
冷却装置	空冷
口径 x ストローク	5.24 mm x 5.78 mm
最大馬力	7,500 rpm 6.2 馬力
最大トルク	6,500 rpm 13.5 Nm
始動装置	セルスターター 及び キック・スターター
イグニッション装置	容量放電点火方式
クラッチ	湿式
ギア	4段

※本書の情報は、予告なく変更する場合があります。

## 仕様

幅	745 mm
長さ	1,880 mm
高さ	1,070 mm
重量	99 Kg
燃料タンク容量	4 ℓ
燃料伝送	GPX-FI 燃料噴射装置
バッテリー	12v - 5Ah
フロント・ライト／尾灯	LED
吸排気弁間隙	0.03 mm
フロント・タイヤ・サイズ	60/100-17"
リヤ・タイヤ・サイズ	70/90-17"



